



障害のある若者の雇用に関する 日米企業リーダー育成研修

ウェビナーシリーズ

職場におけるインクルージョン: 障害者、企業、そして地域へもたらすメリットとは?

ウェビナー#4

(日本時間) 2021年11月19日午前9時～午前10時30分
(米国東部標準時間) 2021年11月18日午後7時～午後8時30分

本ウェビナーでは、障害者雇用の企業側のメリットを明らかにし、日米両国において多様でインクルーシブな職場文化を育む方法について考察する。パネルディスカッションでは、日米それぞれの文化的背景のもとで行われている、様々な採用活動について検討すると同時に、これらベストプラクティスを各国の国内で応用する方法だけでなく、文化の違いや地理的な距離を超えて応用する方法についても検討する。パネリストは、バリアフリーな環境で多様性がありインクルーシブな職場は、障害者に雇用を目指す活力を与えるだけでなく、地域の全ての人々の利益となる有意義で持続的な変化をもたらすということについて議論する。また、日米両国の企業からの事例を取りあげる。

本ウェビナーは、日米の障害を持つ若者の雇用支援に関する5回に渡るウェビナーシリーズの第4回となります。ウェビナーシリーズはマサチューセッツ大学ボストン校・地域インクルージョン研究所 (ICI) と、在日米国商工会議所の共同開催となり、在日米国大使館の助成を受け開催されます。また、第4回目のウェビナーにおきましては、ハワイ大学マノア校障害研究センター (CDS, Center on Disability Studies) ともパートナーシップを組み開催させていただきます。

事前登録制・参加費無料

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD
プロジェクト・ディレクター
Heike.Boeltzig@umb.edu

楠本沙織
プロジェクト・コーディネーター
Saori.Kusumoto@umb.edu

情報保障: 日英同時通訳、日英文字通訳、日本手話、アメリカ手話

事前登録: https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN_LDp2syfeSamDmk9QM-tAdg

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



CENTER ON DISABILITY STUDIES

司会

高橋桐子, PhD

ハワイ大学マノア校

障害研究センター(CDS, Center on Disability Studies)

暫定ディレクター

障害のある学生や他のマイノリティーグループのSTEM教育への移行、文化的な差異や背景を考慮した教育、インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインやICT教育による学生の読み書き能力の向上などの研究を専門とする。また、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授として、高等教育機関、地域の関連団体、企業のネットワーク構築およびその維持活用を通じて、高等教育における障害のある学生支援の質を向上させるプロジェクトに取り組んでいる。



パネリスト

金子久子

サイネオス・ヘルス

リージョナル人事部、ディレクター

新卒で外資系銀行に就職、結婚後、障害のある長男の育児に専念するために専業主婦業を9年経験した。育児中に通訳学校に通いフリーランス通訳業に従事後、2004年アクサ生命に社内通訳者として入社、同社で2009年にダイバーシティマネージャーに選任され、人材能力開発部長、チーフダイバーシティオフィサーを歴任。アクサ損害保険に転籍しCHROに着任した。2019年よりランスタッド株式会社(人材サービス業)にて取締役兼CHRO、2021年8月よりサイネオス・ヘルス合同会社にてRegional HR Directorを務める。日本ブラインドサッカー協会副理事長。慶應義塾大学卒業(社会学専攻)。米国ジョージタウン大学交換留学。早稲田大学MBA主席卒業、管理経営学修士号取得修士論文のテーマは「企業経営における障害者雇用の価値に関する研究」

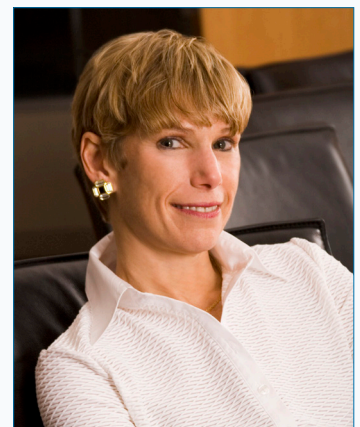


ローリー・ゴールドデン

Ernst & Young, LLP

アビリティ戦略リーダー

あらゆるアビリティ(能力)レベルの人々が活躍できるよう、インクルーシブな環境を整備する世界的な取り組みに従事。EY社内で障害を持つプロフェッショナルな人々のネットワークに対するアドバイス、オフィス環境や内部手続き、技術面のアクセシビリティ向上、アビリティに関する社内啓蒙活動、障害者雇用や障害者支援のモデル構築を担う。「ニューロ・ダイバース・センター」(Neuro-diverse Centers of Excellence)ならびに同僚同士が支え合うメンタルヘルスのプログラム「ウィー・ケア」(We Care)という、EYの画期的な取り組みの立役者でもある。



アメリカ労働省の「サークル・オブ・チャンピオン」(Circle of Champions、権利擁護者のサークル)のメンバーでもあり、Disability:INの評議員も務める。また、障害のある若者の一般雇用につなげるTransCenの副会長も務める。ローリー自身、見た目には分からない複数の障害を持つ。また、神経多様性のある子ども2人(うち一人は難聴)の母であり、頭蓋顔面骨形成不全症の孫を持つ祖母でもある。

金子 明奈

ヤマトシステム開発株式会社 システム本部 パートナー戦略部
プログラム・マネージャー

物流業界最大手のヤマト運輸の情報システム関連会社であるヤマトシステム開発株式会社に新卒入社して以来、事務、営業、財務、IT運用などに従事。2018年に、障害者が幅広いIT関連業務に在宅で従事できる「ワークスタイルサポートサービス(通称: WSS)」という、新しいプログラムのパイロット運営責任者となる。2021年10月現在、このプログラムを通じて11名の障害者が契約社員として働いている。同プログラムのマネージャーとして、社内外の協力を得ながら障害のある人材の教育、運用管理などを担っている。また、社内の様々な部署に同プログラムを根付かせる責任者でもある。



吉村 晃子

ヤマトシステム開発株式会社 管理本部 人事戦略部
ダイバーシティ・キャリア支援担当

1998年に、ヤマトシステム開発株式会社に新卒入社して以来、一貫して人事領域を担当。現在は、社内の人事ポリシーとプロセスの監督、従業員の定着向上、働きがい向上を担当。2015年より、人事領域のダイバーシティ推進担当を兼任。その一環として、自社及びグループ企業の障がい者雇用および定着に関わる。2018年からは、企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE) に会社を代表して参加し、障害者が幅広いIT関連業務に在宅で従事できる「ワークスタイルサポートサービス(通称: WSS)」という、新しいプログラムを参加企業に紹介した。ACEは約30社の大手企業が集まり、「障がい者雇用の新しいモデル確立」をミッションとし活動を行う社団法人である。



レスリー・ウィルソン

Disability:IN

グローバル・ワークプレイス・イニシアチブ、シニアバイスプレジデント

80を超える参加企業に対して、障害インクルージョンの専門家がコンサルティングを提供するインクルージョン・ワークスのチームリーダーを務める。インクルージョン・ワークスは、参加企業に対してバーチャルと対面による3年間のオーダーメイドのコンサルティングを提供し、ベスト・プラクティスやネクスト・プラクティスをシェアするファシリテーションを行っている。2014年のチーム発足以来、140,000人もの障害を持った人々に新規雇用をもたらしている。また、上記チームおよび350名の企業代表者からなる、Disability:INの「Disability:INグローバル・ラウンドテーブル」の世界戦略を率いる。さらに、アジア太平洋地域、欧州中東アフリカ地域、ラテンアメリカ地域の3つの地域理事会のリーダーも務める。これまでに何百社ものアメリカ企業やSociety for Human Resource Management (人材管理協会、SHRM)とNational and Regional Industry Liaison Groups(全米および地域の産業連携グループ)で、職場の障害インクルーシブ化を支援。また、害者を発掘、育成、雇用維持することの投資リターンについてトレーニングを提供している。

